

研究紀要第10号
2021年3月

【研究ノート】

《*Iter Iaponicum*》：日本国内所在の 写本・古版本のカタログ作成に向けて

田中真美・霜田洋祐・國司航佑

2019年、日本に所在するイタリア語の写本、インキュナブラ（揺籃期本）⁽¹⁾および16世紀印刷本の総目録を作成するための研究プロジェクトが立ち上げられた。プロジェクトの名称は *Iter Iaponicum* である。この統一カタログの作成は、日本国内で収集されたイタリア語の稀覯書へのアクセスを容易にすることを目的としている。このことは、日本におけるイタリア学の発展のみならず、イタリアの書籍文化史の全体像を捉えなおす上でも重要な役割を果たすはずである。

本研究ノートは、この *Iter Iaponicum* について、プロジェクトの概要を説明するとともに事前調査から把握される見通しを示し（第1章）、また、これまでに行った現地調査について、興味深い事例の紹介を交えつつ報告する（第2章）ものである。

1. *Iter Iaponicum* 概要⁽²⁾

本プロジェクトでは、古版本のカタログ作成の標準規範に則った形で作業を進めるため、精力的な現地訪問が予定されている。収集データは精査検討を経た後、紙媒体の目録としてまとめられるのはもちろん、資金・技術的な体制を整えば、マルチメディア・コンテンツやリンクを備えたオンラインデータベース

スとして提供される予定である。こうしたカタログ化の作業は、イタリアの古版本全体のデジタル化に向けた一歩となるだけでなく、日本においては、イタリア文化受容に関する研究を深め、この二国間で結ばれた関係を探る一つの手がかりとなることも期待される。本プロジェクトは、Marco Limongelli（京都大学）が主導し、Lorenzo Amato（東京大学）、國司航佑（京都外国語大学）、霜田洋祐（大阪大学）、田中真美（京都大学）、Daniela Shalom Vagata（ボローニャ大学）の協同により進められる。また、適宜、写本学、古文書学、印刷文化、書籍史、書誌学の専門家（Simone Albonico（ローザンヌ大学）、Antonio Ciaralli（ペルージャ大学）、Andrea Comboni（トレント大学）、Marco Corsi（ナポリ大学）、Claudio Giunta（トレント大学）、Carlo Pulsoni（ペルージャ大学））から成る学術委員会の助力も仰ぐ形となる。

なお、本プロジェクトは、2019年4月以降は、JSPS 科研費 19K00472 “ITER IAPONICUM: Catalogue of Manuscripts and Early Printed Books in Italian language held in Japan”（研究代表 Marco Limongelli）の助成を受けて進められている。

網羅的カタログの作成

情報時代の只中にある今、様々なデータベースの地球規模でのネットワーク化の機運が高まっているのは周知の事実であろう。文献遺産の分野でも、この動きは活発である。UNESCO は、全世界の図書館、文書館、博物館、国際機関の協力を得て、図書資料のデジタル化事業を強く推進している。網羅的なカタログの作成は、文献遺産の可視性・アクセス性を向上させることはもちろんのこと、こうした事業の根幹を支える下地となる。世界各地で、新たなカタログ作成のプロジェクトや、写本や古版本の再カタログ化、デジタル化が進められているのは、貴重書の各種コレクションに近年向けられる関心の高まりを反映したものであると同時に、情報技術を利用した新たな文献遺産管理システム

構築への歩みでもある。

日本においては、このような動きは 1994 年、学術情報センター（NACSIS）が電子図書館事業を発足したときに始まった。しかし、イタリア学の分野については、それほど見通しが明るいとは言えないのが現状である。

日本国内の図書館の所蔵物の中には、イタリア国内・ヨーロッパ圏内でも稀にしか見られない非常に貴重なイタリア語書籍もある。その大部分は、20 世紀に愛書家らによって輸入されたもの、つまり近年の博学的収集への関心を物語るものであるか、あるいは、大学図書館によって購入または寄贈を通じて入手されたものである。例えば、京都大学の図書館（附属図書館、文学研究科図書館、経済学部図書室など）の貴重蔵書は、その相当な部分が、後援者、外国大使、卒業生の遺贈から成っている。そのうち、以下の 3 つの寄贈文庫は、イタリア学の分野において、特に興味深いものである。まず、経済学部図書室所蔵の上野文庫は、朝日新聞社元社主の上野精一（1882-1970）、上野淳一（1910-1997）親子による 27,000 冊にも及ぶ寄贈から成り、哲学、文学、日欧交流史など多岐にわたる 28 点のイタリア語の 16 世紀印刷本を含む。また、附属図書館所蔵のアーネストサトウ旧蔵書は、英国外交官でありイエズス会の出版についての研究のパイオニア⁽³⁾であった Ernest Satow（1843-1929）による寄贈コレクションである。さらに、同じく附属図書館所蔵の旭江文庫は、ダンテ研究家として知られる大賀寿吉（1865-1938）による日本国内随一のダンテ関連コレクションである。

しかしながら、こうした価値ある資料群は決して広く知られているわけではない。まず何よりも、国内の図書館に所蔵されているイタリア語の貴重書の情報が、断片的・個別的にしか紹介されていないことが、間口を狭めていることは否めないであろう。イタリア語の（あるいはより広く欧米語の）写本については目録も参考となる文献も存在しないのである。また、イタリア語古版本の所蔵状況についても国内全体を俯瞰した目録を確認することはできない。もち

ろん各図書館のOPACに登録されている刊本もあるが、言語による障壁や十分な書誌情報、所蔵の分散、手続きの煩雑さなどにより、検索が思うようにできないことも多々あるのが現状である。*Iter Iaponicum* は、こうした困難を打開するものであり、慶應義塾大学の「慶應義塾大学メディアセンター デジタルコレクション」や上智大学の「ラウレスキリシタン文庫データベース」、国立国会図書館の「国立国会図書館デジタルコレクション」といった既存のデータベースへの橋渡しも担いつつ、イタリア語の古版本について網羅的なカタログを提供することを企図する。

我々はまず、国内の所蔵状況を大まかに把握するため、事前調査として各機関の公開するOPACやこれまでに発行された各種目録を精査してきた⁽⁴⁾。次いで、所蔵が確認された図書館や各機関で、直接入念な閲覧調査を行っている。そして、こうして集めたデータを個別に精査した上で、版や刷の同定や各資料の特徴を包括的に分析する予定となっている。書誌データの作成は、*Servizio Bibliotecario Nazionale italiano (Guida alla catalogazione in SBN. Libro antico)* の定める写本と古版本についての標準的カタログ化規則に則る。我々の作成する目録は、写本、インキュナブラ、16世紀印刷本の3つのカテゴリーに分類される。書誌データを作成する上で参照モデルとするのは、写本に関しては Istituto Centrale per il Catalogo Unico delle Biblioteche Italiane e per le informazioni bibliografiche (ICCU) の「Manus, Censimento dei manoscritti delle biblioteche italiane」⁽⁵⁾、インキュナブラに関しては、大英図書館の「ISTC: Incunabula Short Title Catalogue. The international database of 15th century European printing」⁽⁶⁾、16世紀印刷本に関しては、ICCU の *Area di attività per la bibliografia, la catalogazione e il censimento del libro antico* が監修する「EDIT 16. Censimento nazionale delle edizioni italiane del XVI secolo」⁽⁷⁾である。また、書誌データには、デジタルコンテンツや電子データベース・電子図書館へのリンクも豊富に取り入れ、利用者が個々の資料に固有の特徴を即座に確認

できるようにする。

事前調査から見える全体像

ここでは、実際の現地調査に先立って行った OPAC 検索、各機関発行の目録の精査などから判明した日本国内における該当資料の所蔵状況を俯瞰する。

(1) 写本

本プロジェクトのタイトルは、第二次世界大戦後に文献学者 Paul Oskar Kristeller により行われた偉業へのある種のオマージュである。彼は、ヒューマニズム関連の写本について、まずイタリア国内の図書館に所蔵されているものを調査し、次いでヨーロッパ、全世界へと範囲を広げた。その最初の段階の成果が 1963 年 *Iter italicum* というタイトルで発表され、その後も、同タイトルで複数の巻に分けて刊行されたのである。しかしながら、日本国内所蔵の写本に関しては、Kristeller はその *Alia itinera* の「ヨーロッパ外」についての補遺において、東京大学に所蔵の Poggio Bracciolini ら人文主義者の書簡集⁽⁸⁾にのみ言及しているに過ぎない。

我々が行った事前の調査では、写本に関するこの Kristeller の報告を更新する結果が得られた。文学作品に関していえば、専修大学にフランチェスコ・ペトラルカ Francesco Petrarca の *Rerum vulgarium fragmenta* (『俗語詩片 (カンツォニエーレ)』) の断片 (ms. 21) の所在が確認された。これは、投資家であり United Mexican Mining Association 会員であった Joseph Tasker (1797-1861) の「ロンドン文庫」を経て渡来したもので、『カンツォニエーレ』1-36, 62-71 の全文と 37, 61, 72 の一部を含む 10 葉からなり、16 世紀成立と考えられている。『カンツォニエーレ』のテキストが途絶える葉には、散文テキスト *Miraculi della gloriosa vergine Maria* の断片が削り取られた跡がある。また、天理図書館にも文学作品の写本 (天文・地理学詩 *La sfera*) の所在が確認されている

が、これに関しては、第 2 章の現地調査報告において詳述する。

上智大学のキリシタン文庫には、*Relatione della nuova et piu remota Christianità dell'Indie occidentali dette Philippine, del sito, et qualità loro* が所蔵されている。これは、スペイン王フェリペ 2 世統治下のフィリピン総督であったスペイン人イエズス会神父 Alonso Sanchez (1547-1593) が、16 世紀末に植民地の布教活動について記した覚書である⁽⁹⁾。また、専修大学には、1548 年から 1551 年の 3 年間にわたって Giovanni Battista Busini が Benedetto Varchi 宛に書いた手紙の手書きコピーが所蔵されているが、これは、おそらく 19 世紀に出版された書簡集からの写しである。

これらの写本に加えて、公正証書、法定書類、経理書類など手書きの記録史料の所蔵も確認されている。最も古いものは、これも専修大学に保管されている 1321 年 7 月 9 日付のラテン語と俗語で羊皮紙に書かれた公正証書で、Pandolfo Grassinelli が Bertolino d'Urbino からモルサーノの *villa* とアクイレイア近郊の Musons の土地の半分を 35 ヴェネツィアリラで購入したことが記録されている。また、一橋大学の社会科学古典資料センターには、羊毛商 Francesco di Giuliano de' Medici の 1471-1472 年期の台帳が所蔵されている。この羊毛商は、Giovenco の孫であり、コンスタンティノーブルにおけるメディチ家財産管理の責任者であったことと、ハーバード・ビジネススクールのペイカー図書館所蔵の多くの経理簿に署名を残していることで知られている。最後に、スコットランドの経済学者・哲学者アダム・スミス (1723-1790) 蔵を経て、現在、東京大学経済学図書館に所蔵の *Statuti veneziani* の 16 世紀後期の手稿にも言及しておきたい。200 葉から成るこの書類は、直接、軍監督官 Proveditore に宛てられている⁽¹⁰⁾。この手稿の見返しには、ラテン語で印刷された典礼文 *Feria quarta quator temporum mensis septembris* の断片が 2 つと、『エズラ記』と『マルコによる福音書』から引用された韻文が添えられている。

(2) インキュナブラ

これまでに所蔵情報が確認されたインキュナブラの中でも最も古いものは、日本大学商学部図書館に所蔵の、1474 年 G. Flandrino によりトレヴィーゾで印刷された Brunetto Latini の *Tesoro* (『知識の宝典』) 初版である。また、天理図書館では、以下の 3 点が閲覧可能である。すなわち、アウグスティヌス『神の国』の俗語訳 (かつては誤って Jacopo Passavanti の訳と考えられていたもので、おそらく 1476 年から 1478 年の間に A. Miscomini によってヴェネツィアで出版)、プトレマイオス『地理学』の俗語韻文訳 (フィレンツェの地理学者・人文主義者 F. Berlinghieri の訳で、1482 年 Nicolò Todesco によりフィレンツェで出版)、『イソップ寓話集』ラテン語俗語対訳 *Esopo moralizzato* (1485 年 F. Tuppo によりナポリで出版) である。

日本国内の図書館には、ダンテ・アリギエーリ Dante Alighieri の作品のインキュナブラも少なくない。クリストフォロ・ランディーノ Cristoforo Landino 註の *Commedia* (『神曲』) は、1481 年フィレンツェの Nicolò di Lorenzo della Magna による初版 (3 部⁽¹¹⁾。内 1 点については後述)、1487 年ブレーシャの Bonino de' Bonini 版⁽¹²⁾、ヴェネツィアの 1491 年 Piero di Piasi 版⁽¹³⁾、1497 年 Piero de Zuanne 版⁽¹⁴⁾、そして、1490 年 F. Bonaccorsi による *Convivio* (『饗宴』) フィレンツェ初版⁽¹⁵⁾が存在している。さらには、サンセポルクロ出身の修道僧・数学者・経済学者 Luca Pacioli の *Summa de arithmetica geometria, proportioni et proportionalita* に至っては、P. de Paganini による 1494 年ヴェネツィア版が 12 部⁽¹⁶⁾もあることが確認された。

(3) 16 世紀印刷本

「16 世紀印刷本 cinquecentine」にいたっては、その国内所蔵数は約 1000 部にもものほり、多くが興味深い所蔵印や *ex libris*、註の書き込みを伴っている。中でも、ピエトロ・ベンボ Pietro Bembo の作品のヴェネツィア版 (1525 年

Tacuino 版⁽¹⁷⁾、1538 年 Marcolini 版⁽¹⁸⁾、1552 年 Scotto 版⁽¹⁹⁾の *Prose della volgar lingua* (『俗語論』) と、1530 年 N. da Sabbio による *Rime* (『詩集』) 初版⁽²⁰⁾に加えて、1501 年のペトラルカ『カンツォニエーレ』⁽²¹⁾ (後述)、1502 年⁽²²⁾と 1515 年⁽²³⁾のダンテ『神曲』、1528 年バルダッサル・カステリオーネ Baldassar Castiglione の *Cortegiano* (『宮廷人』) 初版⁽²⁴⁾といった「アルドゥス版」の所蔵が特筆に値するであろう。

さらには、16 世紀後期の日本におけるイエズス会士たちの活動の記録も豊富である。日本国内の図書館には、ポルトガル領インド、日本、中国、ペルーやメキシコからの通信、報告書、書簡が多数所在し、それらの著者はルイス・フロイス、ガスパル・コエリョ、フランシスコ・デ・ザビエル、ペドロ・ゴメス、ジャンピエトロ・マッフェイ、オルガンティーノ・ニエッキ・ソルド、ファン・デ・サンタ・マリーアやその他のイエズス会、フランシスコ会の神父らである。これらのテキストは、多くがポルトガル語、スペイン語、ラテン語からの翻訳で、ローマ、ヴェネツィア、ミラノ、プレーシャ、ナポリ、パドヴァ、ボローニャ、パレルモで出版されており、伝道活動の報告に加えて、新世界の国（日本）やその他アジア各地からの習慣の報告も添えられている。このような人々や宗教、服装、食物についての描写は歴史記述的な作品でも見られるものである。この種の作品は日本でも数多く所蔵されており、例えば、いずれもイタリア語訳であるが、ポルトガル王マヌエル 1 世とジョアン 3 世に仕えたジョアン・デ・パロスの『アジア史』、スペイン人アウグスチノ会士ファン・ゴンサーレス・デ・メンドーサの『シナ大王国誌』、スペイン人イエズス会士でペルー、メキシコでの宣教に従事したホセ・デ・アコスタ『新大陸自然文化史』、フィリピン総督フランシスコ・テリョ・デ・グスマンによる 1597 年のフランシスコ会士たちの磔刑にまつわる報告が挙げられる。

以上が本プロジェクトの概要と事前調査に基づく 3 つのカテゴリーの素描で

ある。続いて、実際の調査についての報告を行う。

2. 関西の大学図書館における現地調査

我々は、これまで関西のいくつかの図書館と東京大学において、プロジェクト拠点である京都大学や調査メンバーの所属先、また、その周辺から順次現地調査（実在確認、版や書き込みなど特記事項の確認）を行ってきた。その際、現地訪問に先立ち、各図書館の提供する OPAC での検索に加えて、刊行されている目録類、過去の学術成果など⁽²⁵⁾を適宜確認することにより所蔵状況の把

関西の大学、研究機関、図書館における所蔵タイトル数⁽²⁶⁾

機関名	写本	インキュナブラ	16 世紀印刷本	計
京都大学	0	0	124	124
天理大学	2	4	62	68
京都外国語大学	0	2	32[31]	34[33]
近畿大学	0	1	17	18
国際日本文化研究センター	0	0	16	16
関西大学	0	1	13	14
大阪府立図書館	0	0	8	8
京都産業大学	0	1	5	6
神戸大学	0	1	3	4
大阪大学	0	0	4[3]	4[3]
大阪市立大学	0	0	3	3
関西学院大学	0	0	3	3
龍谷大学	0	0	3	3
大阪学院大学	0	1	1	2
大阪商業大学	1	0	1	2
京都工業繊維大学	0	0	1	1
京都橘大学	0	0	1	1
大阪工業大学	0	0	1	1
大阪経済大学	0	0	1	1
神戸芸術工科大学	0	0	1	1
神戸松蔭女子学院大学	0	0	1	1
計	3	11	301	315

握を試みた。ここではまず、現時点（2020 年 10 月）で確認されている、関西の大学、研究機関、図書館等における蔵書数の一覧を掲げよう。なお、ここでの蔵書数とは、「本」の点数ではなく、出版当時のタイトル数を指す。複数タイトルが後年合冊された場合があるからである。

一瞥して、全体の 4 分の 3 以上を上位 3 大学、すなわち京都大学、天理大学そして京都外国語大学の図書館が占めていることが分かる。最も数の多い京都大学の蔵書については、調査が完了し次第、その結果を別途まとめて報告する予定であるので、以下では、現時点での調査結果として、天理大学、京都外国語大学の蔵書を含む主要なものを紹介することとする。

天理大学⁽²⁷⁾（奈良県天理市）

現在、天理大学（旧天理外国語学校）附属図書館として機能する天理図書館は、天理教の広報伝道活動を担う道友社内に 1919 年 3 月に置かれた図書室を前身とし、天理教内および地域社会においては文化的中心として、また、学術的には宗教学等の研究拠点としての重要な役割を担ってきた。

この図書館には、文学作品の写本の所在が確認されている。1400 年代中盤の 64 葉からなるこの写本には、オッターヴァ・リーマで書かれた天文・地理学詩 *La sfera* が収められている。この作品については、著者を人文主義者で神学者のドメニコ会士 Leonardo Dati に帰すべきか、その兄で商業を生業とした年代記作家の Gregorio Dati に帰すべきかで未だ議論が続いている。著者特定の問題に議論の余地があることは、19 世紀の出版者 Gustavo Camillo Galletti の意見に揺れがあることからすでに明らかであった。彼は 1859 年の初版では、何の疑念もなくこの作品を Leonardo に帰している（«*La sfera* [...] da F. Leonardo di Stagio Dati dell'ordine de' predicatori»）が、その 4 年後には、タイトル上でも、Ser Piero Pacini da Pescia のフィレンツェ版に言及しつつ兄 Gregorio という選択肢を排除していない（«*La Sfera* [...] da F. Leonardo Dati, siccome

si ha da vari antichi manoscritti, ovvero da Gregorio Dati, siccome indicherebbe l'edizione»⁽²⁸⁾。天理写本は、すでに確認されている多くの写本（Lucia Bertolini が 1980 年代に行った調査では少なくとも 152 点⁽²⁹⁾）にさらに加わるものであり、詩の全篇を含み、優雅な細密画が添えられている。最後の 4 葉は、シャクヤク、マンドラゴラ、カモミールなどの植物の効能を説明する薬草図鑑に充てられている。

この他に、*Vita del sommo pontefice Sisto V* と題された手書き写本があることが判明しているが、こちらについては、まもなく入念な調査を開始する予定である。

また、インキュナブラは、先に言及された 3 点に加え、1500 年に出版されたアルドゥス版の Caterina da Siena の書簡集⁽³⁰⁾が所蔵されている。このコピーのタイトルページには、かつての所有者のものと思われる名前が書きつけられている。一部不鮮明であり現在完全な判読には至っていないが⁽³¹⁾、“この本は [...] のドメニコ修道士のものである”⁽³²⁾と読める。

天理図書館における所蔵がこれまでに確認されている 16 世紀印刷本 62 点のうち、実に 45 点がイエズス会宣教師による伝道活動についての通信 avvisi、書簡 lettere、報告 relazione の類である。ここでは、その内でも調査中に特異な発見のあった例をいくつか見ていこう。まずは、過去の所有者を示す手書きの書き入れが確認されたものが 2 点ある。1559 年にヴェネツィアの M. Tramezzino によってイタリア語訳が出版された『ポルトガル領インドについての新たなイエズス会通信』⁽³³⁾の天理コピーには、現在判読には至っていないながらも、明らかに現代のものではないインクによる書き込みがタイトルページに確認できた。これは、1932 年の目録に掲載のこのコピーのものとされるタイトルページ複写写真⁽³⁴⁾では視認できなかったもので、現物調査の重要性を再確認させるものとなった。また、1584 年にローマの Francesco Zanetti によって出版された『1579-1581 年日本についてのイエズス会書簡』⁽³⁵⁾には、このコ

ピーがとある“Jacopo”の所有物であったことを示す書き込み⁽³⁶⁾が確認できた。このほかにも、神戸にあった「トンプソン商会」(*The J. L. Thompson & Co.*)やフランス、ラヴァルのイエズス会レジデンス“*Résidence des Missionnaires jésuites*”の旧蔵票⁽³⁷⁾が見返しに貼り付けられており、また、タイトルページにはジャージーのイエズス会コレジオ“*Maison St. Louis di Jersey*”の旧蔵印⁽³⁸⁾が確認された。これらは、このコピーの所在の変遷を追う上で非常に重要な物的証拠となる。

また、印刷本の同定⁽³⁹⁾に関するやや複雑な問題に直面した例もあった。1586年にローマの F. Zanetti により出版された『1582-84 年日本について、ならびに 1583-84 年中国についてのイエズス会通信』⁽⁴⁰⁾は好例である。この版には、タイトル、出版地、出版者、出版年が全く同じでありながら、本文最終ページの次のページ (c. M7r) に本文中の誤植をまとめた *Errori*、そして、その裏 (c. M7v) にレジスター *Registro* が掲載されたもの⁽⁴¹⁾と、誤植が修正された状態で印刷されており、*Errori* および *Registro* の掲載のないもの⁽⁴²⁾という 2 つの刷が存在している。さらに、前者については、京都大学附属図書館所蔵ですでに調査が終わっている 2 点と合わせた 3 点の間で比較しても完全に一致するものがなく、さらなる異刷の存在が判明した。このため我々は、主に海外の図書館が公開しているコピーの確認を通して、*Errori* で指摘されている誤植の数 (fac. 139 までの 22 か所、あるいは、さらに 6 か所増えて 28 か所) やそのページの段組の差異 (新たな 6 か所の指摘部分が上記の 22 か所に揃えて印刷されているか、ずれてしまっているか)、p. 150 から p. 159 までと p. 182 のページ番号表記の誤り (p. 150 から順に 160-161-152-153-164-165-156-157-168-169、また p. 182 は 821 と記載)、p. 156 以降のページ綴りの誤り (p. 155 の後、p. 158-159-160-161-162-163-154-155 が続いたのち、正しい p. 156 以降のページが続く) の有無、それから、p. 171 から p. 188 までの柱 (*testatina*) の記載が“*AVVISI DEL GIAPONE*”であるか、あるいは“*AVVISI DELLA CINA*”で

あるのかにより複数の刷が存在していることを突き止めた。天理コピーは、本文最終ページの次のページの *Errori* において 28 か所の誤植が指摘され、その裏ページには *Registro* がある。また、p. 171 から p. 188 までの柱の表記は “*AVVISI DEL GIAPONE*” であり、p. 150 から p. 159 までと p. 182 のページ番号表記の誤りが確認された。これに対して、前述した京都大学附属図書館のコピーは、一方が p. 182 以外のページ番号表記の誤りを持たず、もう一方は、p. 171 から p. 188 の柱の表記が “*AVVISI DELLA CINA*” となっている点で天理コピーとは異なる刷であることが確認された。この版のコピーは、天理図書館のほかにも、国際日本文化研究センター、近畿大学、京都大学経済学部図書室、上智大学、東洋文庫、筑波大学、横浜開港資料館に所蔵されている模様で、今後の調査の進展に伴って、異刷の同定についても詳細な判断基準を設けることができるであろう。

また、この天理コピーは、すでに別の用途で使用された形跡のある羊皮紙が表紙に再利用されており、この素材が、当時貴重でありながらその丈夫さ故に重宝されたことを物語る文化史的価値をも有する。

こうしたイエズス会関連資料に加え、アウグスチノ会士ファン・ゴンサーレス・デ・メンドーサ (1545-1618) の『シナ大王国誌』⁽⁴³⁾ (1586 年 Muschio 版イタリア語訳)、リスボンで天正の少年使節 4 名を受け入れたことや、いくつかの著作がキリシタン版書籍の原典となったことが知られるドメニコ会士ルイス・デ・グラナダ (1504-88) の修養書のイタリア語訳⁽⁴⁴⁾、Marcantonio Ciappi (1590 年代に活躍) の『教皇グレゴリオ 13 世偉業要略』(1592 年出版と推定される Rossi 版⁽⁴⁵⁾ 1 点と 1596 年 Accolti 版⁽⁴⁶⁾ 1 点) の所蔵も確認された。また、Guido Gualtieri (1565-92 年に著作活動が確認される) の『天正遣欧使節記』に至っては 1586 年 F. Zanetti 版⁽⁴⁷⁾ 3 点と、同年 Gioliti 版⁽⁴⁸⁾ 1 点の合計 4 点が天理図書館に所蔵されている。F. Zanetti 版 3 点のうち 1 点には Federico Cesi (1585-1630) の旧蔵印が見られ、また他の 1 点には手書きのメモや下線、ラテ

ン語でマニクラ *manicula* と呼ばれる指差しマークが散見される。

このように、天理図書館の蔵書のうち、16 世紀イタリア語印刷本のほとんどが日本やアジアにおけるカトリック伝道活動に関連する資料である。天理図書館におけるこの種の資料の収集の始まりは 1931 年にさかのぼり、外交官であった大鳥富士太郎の旧蔵洋書から約 250 点の資料が収蔵されたことに端を発する。この遺贈を基として、時の本柱中山正善により“きりしたん伝道特殊文庫⁽⁴⁹⁾”である「よろづよ文庫」⁽⁵⁰⁾が設立され、殊に中山自身の熱心な収集活動⁽⁵¹⁾により順次拡張された。上述したカトリック伝道活動関連の 16 世紀印刷本 45 点の内 33 点と、写本 *Vita del sommo pontefice Sisto V* が 1955 年までにこの文庫に収蔵されていた⁽⁵²⁾ことが判明しており、うち 12 点については“与路津代文庫”と縦書き二行で記載された朱色の所蔵印が押されているか、あるいは扇の絵を用いた蔵書票が貼り付けられているのが確認された。

また、アイソーポス関連の所蔵状況も大変興味深い。1485 年 Tuppo 版『寓話集』インキュナブラの所蔵はすでに述べたとおりであるが、1957 年時点で和漢洋書合わせて 101 点ものアイソーポスやその作品に関する資料が所蔵、整理されていた⁽⁵³⁾。この 101 点のうちには、1505 年の Manfredo Bonelli 版⁽⁵⁴⁾と 1533 年 Giovanni Andrea Valvassori 版⁽⁵⁵⁾の『イソップ伝』が含まれている。これらはいずれも、アイソーポスの伝記の部分にのみ、ラテン語テキストに前述の Tuppo 版のイタリア語訳を添える形で出版されたものである⁽⁵⁶⁾。また、15、16 世紀に印刷出版された一連のアイソーポス関連本は、その挿絵の伝来という点で大変興味深いものであり、実際、天理図書館に所蔵されている上記 3 タイトルは、挿絵の写植によっても密接に関連付けられる。Bonelli 版は Tuppo 版の『イソップ伝』部分の挿絵を左右反転したものを使用しており、また、Valvassori 版には Bonelli 版の挿絵がコピーされていることが、高橋（1968）によって指摘されている。

これら 16 世紀印刷本『イソップ伝』2 点の天理コピーには、いずれも《昭

和廿三年十月卅一日》に「旦那會」から寄贈されたものであることを示す寄贈印が押されている。二代真柱中山生善の回想⁽⁵⁷⁾によると、1941年5月29日に彼が松村義孝（元大安教会長）夫妻と共に福岡へ赴いていたとき、図書館充実について語り合う中で、この「旦那會」が天理図書館後援会として生まれたという⁽⁵⁸⁾。1957年の時点で、その寄贈により天理図書館に収蔵された図書数は数千に達する⁽⁵⁹⁾など、精力的な後援活動が行われてきたようである。

京都外国語大学

京都外国語大学の付属図書館は中央図書館とアジア関連図書館からなる。執筆言語をイタリア語とする1600年以前の出版本は、中央図書館とアジア関連図書館にそれぞれ13点および16点所蔵されている。これにマイクロフィルムの4点を加えると総数は33となり、これは関西地方の大学で3番目に大きな数となる。中央図書館にクリストフォロ・ランディーノによる『神曲』への註解、古典作品（プリニウス、アイソーポス、エウクレイデス）の俗語訳、Vannoccio Biringucci の *Pirothecnia*（『火工術』）に代表される科学書、David de Pomis のヘブライ語・ラテン語・イタリア語辞典などが所蔵されている。

中央図書館所蔵の13点のうち、2点がインキュナブラである。その第1はプリニウス『博物誌』の俗語訳 *Historia naturale*（訳者はランディーノ）であり、1489年に出版された。インキュナブラにあつては一般的なことだが、この版には表紙がない。そのため慣例に従って、本文冒頭の一文が題名として記録されている⁽⁶⁰⁾。また、奥付のページも独立して存在しておらず、出版に関する諸情報（出版地、出版者、出版年等）は本文の最終段落に示されている⁽⁶¹⁾。第2のインキュナブラは、1497年出版のランディーノによる『神曲』註解 *Commento alla Divina Commedia* である。『博物誌』と同様、題名⁽⁶²⁾も出版関連情報⁽⁶³⁾も本文内に示されているが、後者は末尾に添えられた祈祷文の直前に位置する。この時期の出版物においては、段落の冒頭の文字が所有者によつ

で装飾を加えられるように空白が設けられていることが多いが、上の 2 つのコピーでは、そのような文字の多くが結局装飾されずにそのままの状態で残されている。また、比較的初期の所有者が施したと思われる手書きの注釈、下線、およびマニクラが散見される（図 1 参照）。

中央図書館所蔵の 16 世紀印刷本の中では、まずアイソーポスの『寓話集』が注目に値する。この刊本には当初含まれていたと思われる表紙のページが欠落しているが、我々は EDIT16 を参照し当該ページのデジタル情報を確認することによって題名 *Esopo hystoriado* を同定することができた。他方、当該書は、我々が調査した時点で、京都外国語大学の OPAC においては Favole という題で記録されていた。これは明らかに表紙の欠落によって引き起こされた誤りである。こうした不正確なデータを修正していくこともまた、我々の研究プロジェクトの一環をなす⁽⁶⁴⁾。

Giovanni Boccaccio の *Decameron* (『デカメロン』) の印刷本は、上と同様の、しかしより大きな問題を孕む。京都外国語大学の OPAC は、当該書の出版年として「1527 年」を、出版地として「フィレンツェ」を、そして出版社として「Filippo Giunta」という名を、それぞれ示している。ところが、同一の版について EDIT16 を参照すると、その書の模倣品の存在を知ることができるのである。EDIT16 にはさらにオリジナルと模倣品を見極めるための数少ない差異が示されている。すなわち、模倣品においてオリジナルにあったいくつかの誤植が訂正されている、というのだ。そこで我々は、カザナテンセ図書館が Web 上に公開しているオリジナルの刊本の写真と京都外国語大学図書館に所蔵されているものを照合した（図 2 参照）。その結果、調査対象としたものが 1729 年にヴェネツィアで出版された模倣品であることが判明したのである。これは些末な発見のように見えてそうではない。というのも、1527 年版は『デカメロン』のテキストの伝承においてとりわけ重要とされている版であり⁽⁶⁵⁾、この版が日本の図書館に何点所蔵されているかという問題⁽⁶⁶⁾はそれ自体が、特

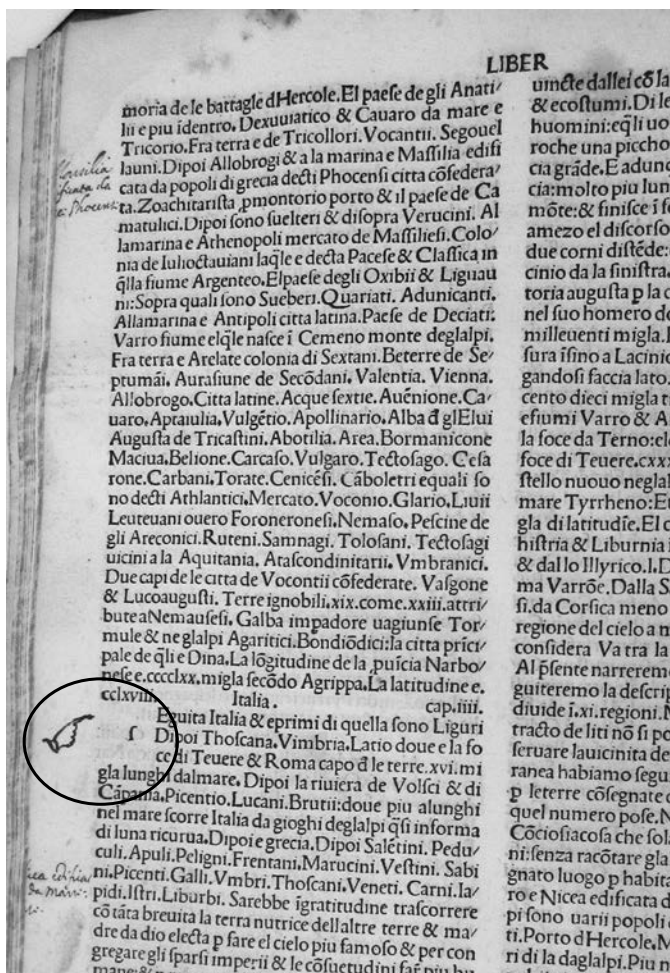


図1 『博物誌』（京都外国語大学付属図書館蔵）c. 6v（部分）

丸で示した部分には、修飾文字用の空白が残されている。

定の文学作品の国外における受容史など、その他の分野に深く関連するものだからである。

『デカメロン』と並び興味深いのは、Niccolò Tartaglia がイタリア語に翻訳し、

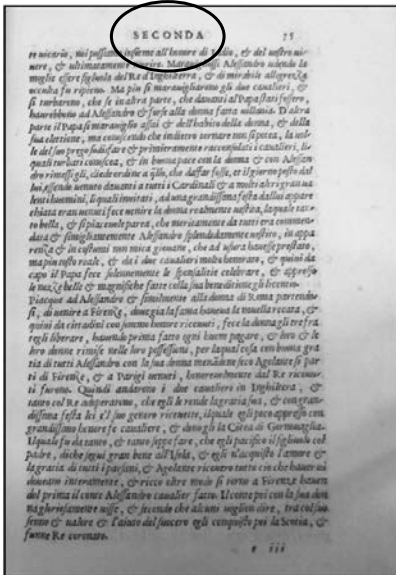


図2 1527年刊 Giunta 版『デカメロン』の模倣品（左：京都外国語大学付属図書館蔵）とオリジナル（右：カザナテンセ図書館蔵）。

“SECDONA”という誤植が、模造品では“SECONDA”と修正されている。

Venturino Ruffinelli が 1543 年にヴェネツィアで出版したエウクレイデスの著書（いわゆる『幾何学原論』*Elementi*）である。まず、幾何学の書であることから多くの図形が各ページの欄外に印刷されているが、それらの一部に手書きの修正が施されている点が注目される。だが、それ以上に注目すべきは、見返しページの直前に挿入された手稿の断片である（図3参照）。この断片がいかなる書物から引き抜かれたものなのか、誰がどのような意図をもってこれを挿入したのか……これらの問題ははまだ調査段階にある。

一方、アジア関連図書館に所蔵されている 16 点の印刷本はすべて 16 世紀本であり、主に宣教師や航海者の手になる旅行記および歴史書からなる。なかでも、ルイス・フロイス、ガスバル・コエーリョをはじめとするイエズス会宣

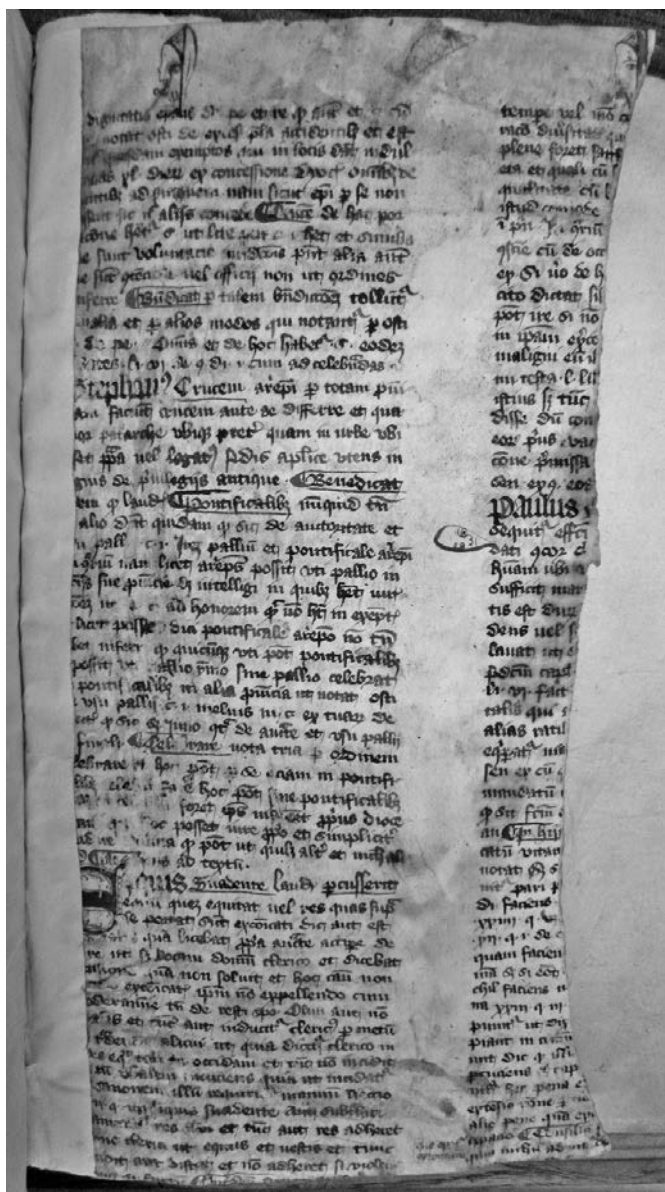


図3 『幾何学原論』に挿入された手稿断片（京都外国語大学付属図書館蔵）

教師の著書の一群が目を引く⁽⁶⁷⁾。ただし、その大半において、題名中に「イエズス会宣教師の手になる Scritte da' Reuerendi Padri della Compagnia di Giesv'」といった文言が確認されるのみで、個別の著者の名は特定されない。16 点の中でとりわけ注目すべき刊本として、ここでは *Diuersi auisi particolari dall'Indie di Portogallo* (『ポルトガル領インドから報告された様々な特殊事象』) および *Lettere dell'India orientale* (『東インドの手紙』) を挙げたい。前者は多数のマニクラが施されており、また後者には極めて多くのページ数の誤植がみとめられそこに鉛筆で訂正が加えられているからである。

京都産業大学

京都産業大学図書館には、イタリア語で書かれた 1600 年以前の刊本が 6 点所蔵されている。そのうち 1 点はインキュナブラである。1481 年にフィレンツェで Nicolò di Lorenzo della Magna により出版された、ランディーノによる『神曲』註解である。このコピーには、「地獄篇」第 1 歌、第 2 歌に 1 図ずつ、計 2 図の銅版画の挿絵があり、テキストと同じ紙に直接刷られている (cc. alr, blv; 図 4 は前者)。一方で、ほかに 18 の挿絵を切って貼り付けるはずだった (18 箇所) 余白がそのまま残されている⁽⁶⁸⁾。なお、「地獄篇」の最初の 19 歌に添えられるはずの、この計 20 の挿絵は、Baccio Baldini による版画であるとされており、その元になった絵は、ボッティチェッリ Sandro Botticelli が描いている⁽⁶⁹⁾。そのため、たとえ二つしか挿絵がなくとも剥ぎ取られたりせず無事に残っているのは重要だろう。それから、段落冒頭には、装飾した最初の文字を入れるスペースがあるが、こちらは全て空白のままとなっている。また、このコピーには、かつての所有者が書きつけた注釈が散見されるのに加え、マニクラも一つ見られる。そのほか、手書きで 2 種類のページ番号が振られている。一つはペンで、序言に 1-12、第 1 歌冒頭から第 2 歌に至るページに 1-18 と書かれている。もう 1 種類は鉛筆で、こちらは最初から最後までページ数

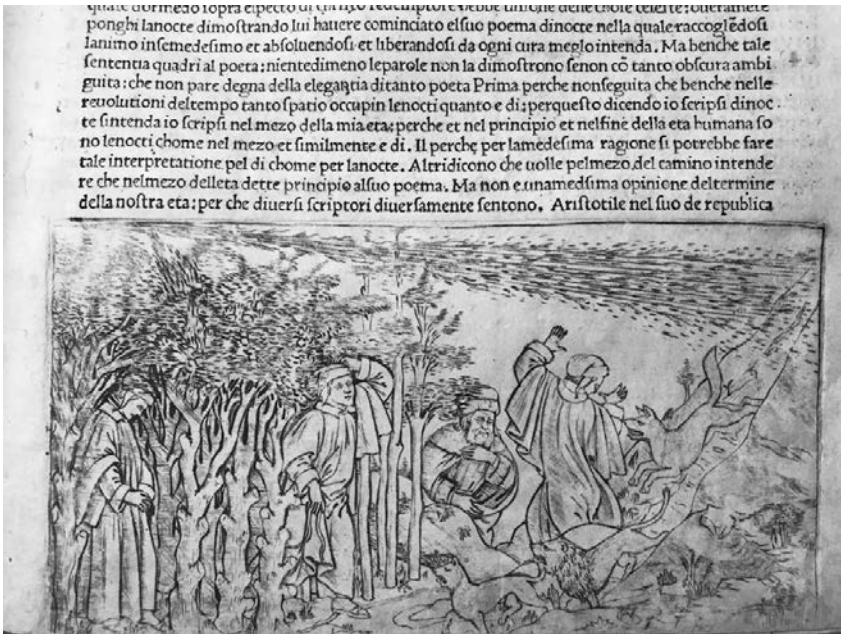


図4 C.al[13]r della *Commedia* con il commento di Landino (1481)
京都産業大学図書館蔵

(すなわち 1 から 366 まで) が書かれている。

16 世紀に刊行された 5 点のなかでは、まず、1501 年にヴェネツィアでアルド・マヌツィオ Aldo Manuzio によって出版されたペトルカ詩集 *Le cose volgari di messer Francesco Petrarca* が特に注目に値する。このアルドゥス版『カンツォニエーレ』は、ピエトロ・ベンボが文献学者としてテキスト校訂を行い、奥付ではペトルカの直筆を忠実に再現したものであると主張されていることで知られる極めて重要な版である。また、この本の巻末に付け加えられた折丁 (fascicolo B) に、実際にはベンボが書いたとされる “Aldo agli lettori” という文章が見られ、それが上の主張を補強していることもよく知られているが、京都産業大学図書館所蔵の一冊はその fascicolo B を含むものであ

る。このコピーには、かつての所有者がテキストに施した様々な書き込み（テキストの修正、下線、「S・」でセステイーナを指すといった個別の詩への参照指示）が確認される。

16 世紀印刷本は、ほかに 1512 年にヴェネツィアで出版されたダンテの作品集 *Opere del diuino poeta Danthe con suoi comenti: recorrecti et con oge diligentia nouamente in lettera cursiua impresse*（ランディーノによる『神曲』註解が中心）、1532 年にパルマで出版されたカスティリオーネの『宮廷人』、1561 年にフィレンツェで出版された Francesco Guicciardini の *La historia di Italia*（『イタリア史』）、1598 年にロンドンで出版された伊英辞典 *A worlde of wordes* が所蔵されている。

大阪大学

大阪大学には、総合図書館に 3 点、理学研究科の数学図書室に 1 点、計 4 点の 16 世紀印刷本が所蔵されている（ただし、総合図書館蔵の 1 点は 18 世紀の模倣品である。註 66 を参照）。

総合図書館の蔵書としては、Giunta 版『デカメロン』の模倣品のほかに、1521 年のアルドゥス版のペトラルカ詩集 *Il Petrarca. Sonetti et canzoni di messer Francesco Petrarca in vita di Madonna Laura* と 1524 年にヴェネツィアで印刷された Jacopo Sannazaro の *Arcadia*（『アルカディア』）が確認される。なお、『デカメロン』とアルドゥス版のペトラルカ詩集の 2 点は、もとは大阪外国語大学の図書館に所蔵されていたもので、大阪大学との統合のち、豊中キャンパスの総合図書館に移されたものである。

理学研究科数学専攻の図書室には、数学関連の稀難書籍が多く所蔵されているが、その中の 1 点が 1600 年以前にイタリア語で書かれた印刷本に該当する。1543 年にヴェネツィアで出版されたエウクレイデス『幾何学原論』の俗語訳である。前出の京都外国語大学中央図書館所蔵のものと同一版の別のコピーと

いうことになる。調査を始めた時点ではこの本に関する大阪大学の OPAC の記載は不完全であったが、これはおそらく目録作成の際に、奥付を含むページが見つからなかったためではないと思われる。というのは、この版の奥付は、最後から 2 番目の 1 葉 (c. DD7) の表側に出版者の商標とともに印刷されているのだが、このコピーの場合は、その後ろに、もともとそこにあるはずではない 2 葉が誤って挿入されていたからである。挿入されていたのは、同じ本の別のページ、具体的には 5 枚重ねおりの最初の折丁 A の中央の 2 葉 (つまり第 5, 6 葉 [A5, A6]) であった。つまりは、その (つながった) 2 葉が外れ落ちてしまい、巻末に移されたということなのだろう。このことは、ローマの国立図書館が Web 上に公開している同じ版の 1 冊と比較し、また *Registro* や折丁記号を確認することによって、確かめられた。この比較により、大阪大学数学図書室にあるコピーは、裏に出版者の商標があるはずの最後の 1 葉 (c. DD8) を欠いていることも確認された。なお、大阪大学の OPAC の記載は、我々の指摘を受けて、すでに修正されている。

このほか、大阪府立図書館 (中央図書館、東大阪市) に所蔵されている 16 世紀印刷本計 8 点についても現地調査が完了している (霜田、2020 年 2 月 21 日)。これらの資料は、同図書館のデジタルアーカイブ「おおさか e コレクション」において、マイクロフィルムが公開されている⁽⁷⁰⁾。また、近畿大学中央図書館 (東大阪市) の現地調査も進められているが、Giulio Antonio Bertelli 氏 (大阪大学) の協力を得て行われた第 1 回調査 (霜田、2020 年 2 月 20 日) では、同図書館の職員より OPAC に登録されていない調査対象書籍のリストを提供された。これも現地調査の重要性を物語るエピソードと言える。

以上、現地調査で確認された興味深い事例を紹介してきた。その中には、インキユナブラのランディーノの註釈による『神曲』やアルドゥス版の俗語古典

作品をはじめとする、文学史・言語史・出版印刷史上の重要資料が見られる一方、イエズス会士たちの伝道の記録など日欧文化交流史・キリスト教史上の貴重な書籍もあった。これらは主に文学を専門とする調査員が現時点で興味深いと思う資料であるが、我々はこのほかの専門外の資料についても所有者による書き込みや旧蔵情報を逐一記録しているということを今一度強調したい。これらの情報は、その資料を専門とする内外の研究者にとっては、我々の思いもよらぬ貴重な価値を有するものかもしれないのである。この調査が早く完了し、その成果へアクセス可能になる日を心待ちにしていいただければ幸いである。

〈注〉

- (1) インキュナブラ（揺籃期本）の定義については、例えば Braidia (2000: 41) を参照されたい。
- (2) 事前情報の収集は主に Limongelli と田中によって行われた。本章では、田中がそれをまとめて記述した。
- (3) *The Jesuit Mission Press in Japan, 1591-1610*, 1888 の著者でもある。
- (4) この作業は、現地調査と並行して今後も続けられる。
- (5) 〈<https://manus.iccu.sbn.it>〉. 後述するように、日本国内には、記録史料に該当する手稿の所蔵も少なくないことが明らかになった。これらについては、その性格上、Manus の記述基準ではなく、記録史料記述の国際標準に則した書誌データ記述を検討している。
- (6) 〈<https://data.cerl.org/istc>〉.
- (7) 〈http://edit16.iccu.sbn.it/web_iccu〉. この Edit16 の存在が、我々の古版本の調査範囲を 1600 年以前に出版されたものまでと定める根拠となっている。
- (8) *Iter italicum* VI: 569. 東京大学総合図書館（本郷）に保管されている羊皮紙写本 ms. membranaceo A100.1300 である。Polak (1994: 403) も参照。
- (9) パチカン図書館、ミュンヘンのバイエルン州立図書館にも同書の所蔵が確認されている。
- (10) «Tu amministrerai ragion et giustizia in civil et in criminale, secondo la forma delle leggi di questa città nostra di Venetia...» との記載がある。
- (11) 京都産業大学、東京大学、明治大学に各 1 部所蔵。以下、複数所蔵の場合のみ機関

名の後に部数を括弧書きで付す。

- (12) 慶応義塾大学、広島経済大学。
- (13) 関西大学。
- (14) 京都外国語大学、東北学院大学、明星大学。
- (15) 近畿大学、明星大学、早稲田大学。
- (16) 朝日大学、大阪商業大学、神奈川大学、久留米大学、慶応義塾大学、神戸大学、専修大学（2）、日本大学商学部、広島経済大学、放送大学、早稲田大学。
- (17) 京都大学、東京大学、早稲田大学。
- (18) 京都大学。
- (19) 東海大学。
- (20) 東京大学。
- (21) 京都産業大学。
- (22) 印刷博物館、関西大学、京都大学、天理大学、東京大学、東北学院大学、明治大学、立教大学。
- (23) 東海大学。
- (24) 天理大学、鶴見大学（一部分）。
- (25) 天野 1952; LIL; LIL2; KUFs 1972; KUFs 1981; KU UENO 2-1, 2-2; KINKI 1993; TENRI 1932; TENRI1941; TENRI 1955a; TENRI 1955b; TENRI 1960; TENRI 1962; TENRI 1972; TENRI 1976; TENRI 1989; 富永 1964; 雪嶋 1988; 雪嶋 2007; 八木 1931; KUFs 2001.
- (26) なお、[]で示した数字は、現地調査による同定作業の結果を受けて、後年の模造品などを除いた数である。
- (27) 天理大学におけるこれまでの調査は、Limongelli（2019/7/18, 12/19, 2020/11/12）、霜田（2020/7/29, 9/25）、田中（2019/7/18, 9/12, 12/19, 2020/7/2, 7/29, 9/18, 9/23, 11/12）が行った。また、京都外国語大学における調査は Limongelli（2019/6/18, 7/11）、國司（2019/6/18, 9/17-19, 2020/1/6-10, 8/24-28）、田中（2019/6/18, 7/11）が、京都産業大学は霜田（2019/8/28-29, 12/11）と田中（2019/8/28-29）が、大阪大学も霜田（2019/9/18, 10/11）と田中（2019/9/18）が行った。各報告の執筆は下線の調査員が担当する。
- (28) L. Dati, *Sfera* (1859: IV-V); L. Dati, *Sfera* (1863: 3-4); cfr. Bertolini (1984).
- (29) Bertolini (1982); Ead. (1985); Ead. (1988).
- (30) «Epistole devotissime de sancta Catharina da Siena...»
- (31) 今後、学術委員会にも意見を求め、解決を目指す。
- (32) «Questo libro è de fra Domenico della [...]»
- (33) «Nvovi avisi dell'Indie di Portogallo...»

- (34) TENRI 1932, p. 38 (n. 1.33)
- (35) «Alcune lettere delle cose del Giappone... Dell'anno 1579 insino al 1581.» なお、本プロジェクトにおいては、原文の「v」が現在の正書法で「u」にあたる場合でも、原文に基づいて「v」と翻刻している。これは、異刷などを確認する際に、有用な判断材料となるからである。
- (36) 書き込みは、判読可能な範囲で «Del D[...] Jacopo Co[...]ini» と読めたが、正確性を期すため、學術委員会の意見を仰ぐこととする。
- (37) 今回は、調査の進行状況と時間の都合上、該当部分の複写・転載許可が間に合わなかった。ただし、ここで紹介した蔵書票等は、以下のウェブサイトにて確認されるものと同一である。https://numelyo.bm-lyon.fr/f_view/BML:BML_06PRV01000SJInca006128 (なお、本稿の URL はすべて 2020 年 10 月 20 日参照)
- (38) https://numelyo.bm-lyon.fr/f_view/BML:BML_06PRV01000SJTH20662T01107
- (39) この問題に関しては、私立大学図書館協会 東地区部会研究部 西洋古版本研究分科会が提供しているウェブサイト「西洋古版本について学ぶサイト」(https://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/early_p_book/abc-for-earlybooks/、2020 年 10 月 20 日参照) が大変参考となった。
- (40) «Avvisi del Giappone de gli anni MDLXXXII LXXXIII et LXXXIV. Con alcuni altri della Cina dell'LXXXIII et LXXXIV...»
- (41) Cfr. http://edit16.iccu.sbn.it/scripts/iccu_ext.dll?fn=10&i=3633
- (42) Cfr. http://edit16.iccu.sbn.it/scripts/iccu_ext.dll?fn=10&i=76008
- (43) «Dell'istoria della China, Descritta nella lingua Spagnuola, dal P. Maestro Giovanni Gonzalez di Mendoza, dell'Ord.di S. Agostino...»
- (44) 当該資料は、1587 年ヴェネツィアで G. Angelieri により出版されたルイス・デ・グラナダ全集 («Tutte le opere del R.P.F. Lvgi di Granata, dell'Ordine de' Predicatori...») の第 12 巻で 1587 年出版の «Prattica del viver Christiano...» と、1588 年出版の第 11 巻 «Trattato della confessione, & Communione, del R.P.F. Lvgi di Granata dell'ordine di San Domenico...» の 2 点が合冊された状態である。
- (45) «Vita di n. s. papa Greg. XIII Bolognese...»
- (46) «Compendio delle heroiche, et gloriose attioni, et santa vita di papa Greg. XIII...»
- (47) «Relationi della venvta degli ambasciatori giaponesi à Roma sino alla partita di Lisbona...»
- (48) «Relationi della venvta de gli ambasciatori giaponesi à Roma, sino alla partita di Lisbona...»

- (49) TENRI 1955a, 序.
- (50) 「よろづよ文庫」のうち比較的著名な資料について、1932 年 *Catalogue of Special Books on Christian Missions* (『きりしたん伝道特殊本目録』) が天理図書館より発行されている。次いで、1955 年には、上掲書の発行以降 1955 年 3 月までに新たに加わった資料の内、1800 年以前に刊行あるいは書写されたカトリック伝道に関わるものに限った形で、第 2 篇が編まれている。いずれも既に絶版となっているが、天理図書館のウェブサイト上で PDF ファイルが公開されている。
- (51) 「中山真柱さまは、本文庫の真の生みの親で、同時に育ての親でもあられた。当初以来、物心両面から、いさゝかおしむ処なく、御援助、御激励をたまわり、蒐集の軸であられた。ことに昭和廿六年、同廿九年両度の外遊に際して、ひろく海外に渉猟せられ、もつとも貴重な文献の蒐集にも成功せられた。」(Tenri 1955a, 序)
- (52) 天理図書館で整備されていた 200 余りの文庫のうち、綿屋文庫、古義堂文庫、吉田文庫、近世文書を除くものは、現在では文庫のまとまりを解かれて天理図書館蔵書中に分類されている。(Cfr. 天理図書館ホームページ「特別文庫について」<https://www.tcl.gr.jp/collection/special/>)
- (53) 沢田 1957 参照。
- (54) «La vita di Esopo historiata.»
- (55) «La vita di Esopo historiata...»
- (56) 高橋 1968.
- (57) 高安大教会発行『二代会長を偲びて』における追悼文より。ただし、筆者は、それぞれ同じ箇所を全文引用している藤田 1970 と藤田 1980 を参照した。
- (58) 藤田 1970.
- (59) 「教内有志各位によつて組織されたる尊経旦那会のご発意により、ここ十年近くの間、本館に収蔵された図書、今や数千巻に達する。」(島居 & 中村 1957)
- (60) 第一葉左段上部に «*Historia naturale di C. Plinio Secondo tradocta di lingua latina in fiorentina per Christophoro Landino fiorentino al Serenissimo Ferdinando Re di Napoli.*» と記載されている。
- (61) 最終葉裏右段下部に «*Impresso in Venesia : per Bartolamio de Zani de Portesio nell'anno della Natiuita del nostro Signore Iesu Christo Mccccxxxix adi xii di Settembre.*» と記載されている。
- (62) COMENTO di christophoro Landino fiorentino sopra la comedia di Danthe alighieri poeta fiorentino
- (63) Impressa in Venetia per Piero de zuanne di quarengii da palazago bergamasco. Del

M.CCCC.LXXXXVII. Adi. XI. octubrio

- (64) 本書は 1508 年、ヴェネツィアで、M. Bonelli によって出版されたことが奥付から分かるのだが（Stampado in Venetia per Maestro Manfredo de Bonello de Streuo da Monteferatonel anno del signoreMcccccviii adi xxde Decembrio）、京都外国語大学の OPAC では出版者不明（s. n.）とされていた。
- (65) 19 世紀を代表する詩人であり、文芸批評家でもあったウーゴ・フォスコロによれば、「1527 年の版は、共和制の時代の最後の犠牲者を記録するものとして、出版当初からフィレンツェ人に大切にされた。なぜなら、この版を待ち望んでいたほぼすべての若者がメディチ家を相手に闘争し、フィレンツェ侵略の犠牲となって尽き果てたか祖国を離れてからだ。」（Foscolo 1953: 319）。
- (66) 我々は大阪大学所蔵の刊本についても同様の検証を行い、模倣品であることを明らかにした。
- (67) イエズス会関連の蔵書の豊富さは、京都外国語大学がこれまでに築き上げてきた日欧交流史研究の伝統（例えば松田毅一）によって説明されるものと思われる。
- (68) これらを有するコピーも現存する。挿絵の点数はコピーによって異なるのである。
- (69) Cfr. ISTC, id00029000: <<https://data.cerl.org/istc/id00029000>>.
- (70) <<https://www.library.pref.osaka.jp/site/oec/>>。ただし、同じ版の 2 点（1578 年刊の “Del gouerno et amministrazione di diversi regni et repvblliche, cosi antiche come moderne di M. Francesco Sansouino, libri XXI...” が 2 冊ある）のうち 1 点（資料番号 2610358588）のマイクロフィルムは公開されていない。

〈引用参考文献〉

Bertolini L.

- 1982 *Censimento dei manoscritti della Sfera del Dati. I manoscritti della Biblioteca Laurenziana*, «Annali della Scuola Normale Superiore di Pisa», s. III, XII, pp. 665-705.
- 1984 *L'attribuzione della «Sfera» del Dati nella tradizione manoscritta*, in *Studi offerti a Gianfranco Contini dagli allievi pisani*, Firenze, Le Lettere, pp. 33-43.
- 1985 *Censimento dei manoscritti della Sfera del Dati. I manoscritti della Biblioteca Riccardiana*, «Annali della Scuola Normale Superiore di Pisa», s. III, XV, pp. 889-940.
- 1988 *Censimento dei manoscritti della Sfera del Dati. I manoscritti della Biblio-*

teca Nazionale Centrale e dell'Archivio di Stato di Firenze, «Annali della Scuola Normale Superiore di Pisa», s. III, XVIII, pp. 417-588.

Braida L.

2000 *Stampa e cultura in Europa*, Bari, Laterza.

Dati L., *Sfera*

1859 *La sfera: libri quattro in ottava rima scritti nel secolo XIV da F. Leonardo di Stagio Dati dell'ordine de' predicatori. Aggiuntavi La nuova sfera pure in ottava rima di F. Gio. M. Tolosani da Colle dell'istess'ordine domenicano uscita già in luce in Firenze nel 1514 e L'America di Raffaello Gualterotti premessevi le notizie di essi scrittori e di Raggio Fiorentino non meno che di altri astronomi toscani*, Firenze, Molini.

1863 *La Sfera: libri quattro in ottava rima scritti nel secolo XIV da F. Leonardo Dati, siccome si ha da vari antichi manoscritti ovvero da Gregorio Dati siccome indicherebbe l'edizione fiorentina del 1513. Testo di lingua allegato nel Vocabolario della Crusca: ora, coi due libri prima aggiuntivi da F. Giovanni M. Tolosani da Colle sulla unica rarissima edizione di Firenze del MDXIV dati nuovamente in luce dall'avv. Gustavo Cammillo Galletti*, Roma, Tipografia delle scienze matematiche e fisiche.

Foscolo U.

1953 *Discorso storico del sul testo del Decamerone*, in *Saggi e discorsi critici*, a cura di C. Foligno, Firenze, Le Monnier, pp. 301-398.

IJL

Union catalogue of incunabula in Japanese libraries (IJL), compiled by Koichi Yukishima, Tokyo, Yushodo Press Co., Ltd., 1995.

IJL2

Incunabula in Japanese Libraries (IJL2). Second edition of «Union Catalogue of Incunabula in Japanese Libraries», by Koichi Yukishima, Tokyo, Yushodo Press Co., Ltd., 2004.

Iter italicum VI

Paul Oskar Kristeller, *Iter italicum*, vol. VI, *Italy III and alia itinera IV. Supplement to Italy (G-V), Supplement to Vatican and Austria to Spain*, London-Leiden, Warburg & Institute-Brill, 1992.

KINKI

1993 「館蔵インキュナブラ目録 (1)」、『香散見草：近畿大学中央図書館報』、20、近畿大学中央図書館、pp. 13-16.

KU OGA

1941 *Catalogo della Collezione Dantesca donata da Giukici Oga*, Kyoto, Biblioteca dell'Imperiale università di Kyoto.

KU UENO

1978 『上野文庫目録』、一般部門 2-1 / 2-2, 京都大学経済学部.

KUFS

1981 *Bibliotheca lexicographica. A Catalogue of pre-twentieth century Dictionaries and Encyclopaedias in the Collection of the University Library*, University Library, Kyoto University of Foreign Studies.

Pastena C.

2013 *Ars artificialiter scribendi. Il libro antico a stampa*, Palermo, CRICD.

Polak E. J.

1994 *Medieval and Renaissance letter treatises and form letters*, by Emil J. Polak, vol. II, A census of manuscripts found in part of western Europe, Japan, and the United states of America, Leiden, Brill.

TENRI

1932 *Catalogue of special books on Christian missions*, compiled by M. Takahashi, The Tenri Central Library.

1941 *Catalogue of the Rare Books of the Tenri Central Library*, Tambaichi, The

Tenri Central Library.

- 1955a *Catalogue of special books on Christian missions*, vol. II, The TenriCentral Library.
- 1955b 『善本写真集 5：開館 25 周年記念播観本集』、天理図書館.
- 1972 『善本写真集 38：歐本イソップ物語』、天理図書館.
- 1979 『天理図書館所蔵古代オリエント関係外国語図書分類目録』、日本オリエント学会.
- 1989 *Catalogue of the Rare Books of the Tenri Central Library*, The Tenri Central Library, Tambaichi.

天野敬一郎

- 1952 「本邦所在インキュナビュラ総合目録」、『図書館界』、vol. 4, no. 3, pp. 114-16.

折井善果

- 2010 『キリシタン文学における日欧文化比較：ルイス・デ・グラナダと日本』、折井善果、教文館.

沢田芳三郎

- 1957 「本館蔵イソップ物語目録」、『ビブリア：天理図書館報』、天理大学出版部、No. 9, pp. 47-55.

島居清&中村満次郎

- 1957 「尊経旦那會寄贈図書抄録（一）」、『ビブリア：天理図書館報』、天理大学出版部、No. 9, pp. 42-44.

高橋重臣

- 1968 「イソップの繪入古判本」、『ビブリア：天理図書館報』、天理大学出版部、39, pp. 76-84.

富永牧太

- 1964 *Catalogue of Incunabula in Japan*, «Biblia: Bulletin of Tenri Central Library», 29, pp. 110-103.

藤田善三郎

- 1970 「尊経旦那會に就いて」、『ビブリア：天理圖書館報』、46、天理大学出版部、pp. 202-205.
- 1980 「二代真柱様と尊経旦那會」、『ビブリア：天理圖書館報』、75、天理大学出版部、pp. 18-22.

八木敏夫

- 1931 「インキュナビュラの二地誌に就いて」、『玉肩』、第 4 冊、一誠城堂玉肩會、pp. 1-14.

雪嶋宏一

- 1988 *Incunabula in Waseda University Library*, «Bulletin of the Waseda University Library」、29、pp. 85-103.
- 2007 「わが国におけるアルド版の調査研究」、『早稲田大学図書館紀要』、54、pp. 1-54.